平成３１年２月定例会　総括審査会

川田昌成議員

委　　員	川田昌成
所属会派 （質問日現在）	ふくしま未来ネット
定　例　会	平成３１年２月
審査会開催日	平成３１年３月１９日（火）

川田昌成委員

平成最後の登壇による質問者になる。

きのう、宮下委員から地方振興局の質問があった。私は視点を変えて、地方振興局の連携が必要ではないかと思うが、地方振興局間の連携推進にどのように取り組んでいくか、総務部長の考えを聞く。

総務部長

７つの生活圏特有の地域課題はもとより、圏域を越えた課題を解決するため、地方振興局が相互に連携して、定住・二地域居住の推進や、交流人口の拡大、県産品の魅力と安全性に対する情報発信、地域の歴史や文化を学ぶパンフレットの作成などの取り組みを進めている。今後とも、復興や地方創生に向け、地方振興局間の連携推進に積極的に取り組んでいく。

川田昌成委員

かつて私は７つの生活圏の連合サミットを機会を捉えて提唱したが、残念ながら開催はできなかった。

総務部長は新年度から副知事となるが、今までの経験を踏まえ抱負を聞く。

総務部長

復興と人口減少対策ともに困難な課題だと考えており、解決のためには、県庁全体の総合力を上げる必要があると考えている。一人一人の職員の力は決して大きくはないが、それぞれが進化に向けて挑戦を続ける。まさに一人一人「柳は緑花は紅」である。それを念頭に置きながら精いっぱい努力する。これに尽きるのではないかと考えている。

もちろん県庁組織だけの力ではなし遂げられない。市町村、住民の思いを一つにし、現場主義を貫き、笑顔が輝くふるさと福島をつくっていきたい。

川田昌成委員

情のある総務部長であるから、副知事になっても県民のために尽力することを大いに期待している。

次に、まちづくりについて聞く。

けさテレビを見てスポーツ、文化についても、老若男女問わず、にぎわいを創出することがまちづくりの原点ではないか。

そこで県は、地域の特色を生かしたまちなかのにぎわい創出にどのように取り組んでいくのか、商工労働部長に聞く。

商工労働部長

これまで、まちなかの情報発信、多世代が交流できる拠点の整備を支援するほか、建築等の専門家による商店街の魅力発掘、公共交通機関によるまちなか訪問の促進などさまざまな取り組みを展開してきた。新年度は、出店希望者に挑戦す

る場を提供し、魅力ある店舗の創業等を支援するとともに、シェアサイクルを導入して、まちなかの名所、史跡や店舗等への回遊性を高める取り組みを実施するなど、引き続き地域の特色を生かしたにぎわいの創出に取り組んでいく。

川田昌成委員

まちづくりの原点は、おらがまちである。特色を生かしたまちづくりが必要ではないか。長い間県政に携わってきた思いを商工労働部長に聞く。

商工労働部長

まちづくりに携わっていて、重要なのは人づくりだと思っている。まちなかのにぎわい、担い手が不足をしている状況の中で、人づくりが重要だと思っている。私は、観光交流局長、商工労働部長を４年間務め、その思いを強くした。また、川田委員の一般質問、きのうの宮下委員の総括質問を聞き、人づくりや人材育成が重要であると思いを強くしている。

人づくりや人材育成、やはり我々は、思いを行動にしなくてはいけないと思っている。アクションを起こす必要があると思っている。アクションとは、例えば我々が県外に行ったとき、県外にいる人たちに本県の今の状況を伝えるだけではなく、例えば一緒に本県に来てにぎわいや復興の状況を見てもらう、あるいは県外にいる人たちが本県に戻り、就職や生活をしてもらうことにより本県やまちなかのにぎわいが促進されると思っている。

そのためには、本県のことをよく知り、歴史や文化、風土、伝統工芸、あるいはきらりと光る技術を持った企業があるなど、本県の強みや魅力を知り、それを行動に移すような人材の育成が大切である。それにより先ほど述べたようなまちなかのにぎわいや商工労働部で抱えている課題、事業承継や人手不足の問題、Ｕターン不足などが解消できる、あるいは中長期的ではあるが解消できるのではないかと思っている。

私もそういった思いを胸に行動に移し、少しでも福島の復興・創生に寄与できればと思っている。

川田昌成委員

ぜひ県庁を離れても人材育成に尽力願う。

次に、道路整備について聞く。

待望の鳳坂峠がいよいよ着工し、我々地域の者としては、今後どうなっていくのかと期待と不安が重なっているが、国道118号における鳳坂峠の役割は非常に大きなものと期待している。

そこで、国道118号鳳坂工区の整備状況と今後の見通しについて、土木部長に聞く。

土木部長

国道118号鳳坂工区については、年間を通して安全で円滑な交通を確保するため、平成25年度から全長約3.4㎞の区間で事業に着手し、現在、トンネル及び橋梁工事を進めており、平成30年代前半の完成に向け、重点的に整備を進めていく。

川田昌成委員

長い間、社会資本整備に携わってきた土木部長なので、今後の県政についての思いを聞く。

土木部長

昭和58年４月に会津若松建設事務所で辞令を受けて以来36年土木技術者として働いてきた。坂下の片門橋、三島の新宮下橋、猪苗代湖船渠、阿武隈高原道路などの道路事業、福島空港の拡張工事や須賀川では地域づくりに取り組んできた。そして今ほど述べた鳳坂トンネル、開通した柳沢トンネル、工事中の博士トンネルは、本庁の担当課長として、ルート選定や事業化に取り組んだ。まさに土木屋の冥利である地図に残る仕事をさせてもらった。これまで世話になった皆には感謝の気持ちでいっぱいである。

大震災からの８年間は県道の復旧・復興なをし遂げるとの使命を果たすため土木部一丸となって全力で走り続けてきた。幸い、多くの支援や協力を受け、復旧・復興事業は着実に進捗した。これを完全に仕上げることを後継に引き継いでいきたい。

また、社会資本の整備管理は、県民の生活の安全・安心に非常に重要であることから、より一層現場での取り組みを進化させるよう後輩職員に伝えていく。

川田昌成委員

長い間本当に御苦労さまであった。今後も指導のほどよろしく願う。

最後になるが、ことしはいよいよ選挙の年であるが、投票率のアップを目指さなければならない。

県選挙管理委員会は、選挙の投票率向上に向けどのように対応していくか。

選挙管理委員会委員長

選挙の投票率向上については、民主政治の健全な発展には、有権者が政治や選挙に関心を持ち、主権者として１票の権利を行使することが、必要不可欠であると考えている。

このことから、選挙出前講座等により、常日ごろから有権者の意識高揚に努めるとともに、選挙時は、街頭での呼びかけや、あらゆる広報媒体による啓発に取り組むなど、市町村や明るい選挙推進協議会等と連携を密にし、さまざまな機会を捉えて啓発に努めていく。

川田昌成委員

言葉だけではなく行動で本県の投票率向上のために全力を挙げて取り組んでほしいと要望しておく。